

中日言語対照研究論叢

汉日语言对比研究论丛
(第5辑)

汉日对比语言学研究(协作)会 编

大学出版社
UNIVERSITY PRESS

汉日语言对比研究论丛

第5辑

汉日对比语言学研究(协作)会 编



北京大学出版社
PEKING UNIVERSITY PRESS

图书在版编目(CIP)数据

汉日语言对比研究论丛·第5辑/汉日对比语言学研究(协作)会编. —北京:北京大学出版社,2014.9

ISBN 978-7-301-24695-5

I. ①汉… II. ①汉… III. ①汉语—对比研究—日语—文集
IV. ①H1-53②H36-53

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2014)第 197542 号

书 名: 汉日语言对比研究论丛·第5辑

著作责任者: 汉日对比语言学研究(协作)会 编

责任编辑: 兰 婷

标准书号: ISBN 978-7-301-24695-5/H·3562

出版发行: 北京大学出版社

地 址: 北京市海淀区成府路 205 号

网 址: <http://www.pup.cn>

新浪官方微博: @北京大学出版社

电 话: 邮购部 62752015 发行部 62750672 编辑部 62759634

出版部 62754962

电子信箱: lanting371@163.com

印 刷 者: 北京大学印刷厂

经 销 者: 新华书店

880 毫米×1230 毫米 A5 10.5 印张 302 千字

2014 年 9 月第 1 版 2014 年 9 月第 1 次印刷

定 价: 36.00 元



未经许可,不得以任何方式复制或抄袭本书之部分或全部内容。

版权所有,侵权必究

举报电话: 010-62752024 电子信箱: fd@pup.pku.edu.cn

《汉日语言对比研究论丛》编委会

主 编：林 璋

副 主 编：赵 刚 王亚新

编 委：陈访泽 陈俊森 戴宝玉 高 宁 林 璋 卢 涛
彭广陆 朴贞姬 王 忻 王亚新 吴大纲 许宗华
续三义 杨凯荣 俞晓明 张 威 张麟声 赵 刚
赵华敏 朱春跃 朱京伟

主编助理：魏丽琴

前 言

《汉日语言对比研究论丛》(第5辑)与各位见面了。本辑是按照汉日对比语言学研究(协作)会制定的工作条例来运作的辑。本辑共收到51篇具备会员或会友资格的来稿,经编辑委员会专家严格审读,最终采用22篇。另有1篇特约论文。

2013年8月21—22日,第五届汉日对比语言学研讨会在福建师范大学外国语学院圆满举行。来自日本、美国、中国和中国澳门特别行政区的83所高校和研究机构的137名代表参加了本次研讨会。研讨会为期两天,分主题演讲、专题报告会、分科会、专题论坛四个板块展开。开幕式由福建师范大学外国语学院副院长、汉日对比语言学研究(协作)会副会长林璋教授主持,福建师范大学副校长许明教授、汉日对比语言学研究(协作)会会长朱京伟教授、日本国际交流基金会北京日本文化中心所长吉川竹二先生在开幕式上致辞。开幕式后,举行了“第五届汉日对比语言学优秀成果奖”的颁奖仪式。于康教授、彭广陆教授获得本届的优秀论文奖,马燕菁副教授获得优秀专著奖,朱京伟会长为获奖者颁发了证书和奖金。在之后进行的主题演讲中,来自美国哈佛大学的Wesley Mark Jacobsen教授和日本东京大学木村英树教授为大会做了精彩的演讲。本届研讨会举办了14场分科研讨会,共有93位代表宣读了论文。

本届研讨会首次尝试设立1场专题论坛和3场专题报告会。会议期间实施的问卷调查显示,与会代表对此给予了充分的肯定,并对今后研讨会的运作提出了宝贵意见。

会议期间召开了常务理事会议,讨论并通过了各个委员会的工作条例和实施细则。虽然在其后的实施过程中还是遇到这样那样的问

题,但是我们有了一个良好的开端。我们相信在全体会员、会友的共同努力下,学会的制度建设会日臻完善,运作也会更加规范。

《汉日语言对比研究论丛》编辑委员会

2014年4月26日

本辑内容提要

本辑共收录论文23篇，其中特约论文1篇，投稿论文22篇。

特约论文「抽象名詞主題文研究の意義——作文を支援する語彙・文法的研究の観点から——」（矢澤真人）探讨了日语中抽象名词作主语时的语法限制，并对可能使用的句型进行了初步分类。

语法研究论文7篇。《汉日语系词句对比研究——以汉语属性句和日语措定句为中心》（张秀娟、陈访泽）从语义特征和句法特征方面对汉语属性句“A是B”和日语措定句「AはBだ」进行了对比研究，指出汉语属性句和日语措定句拥有相同的语义框架：[+指称][+非类指][+定指]/[+指称][+类指]——[+非指称]。「日中両言語の受動文の受影性」（李藝）首先对汉日两种语言的被动句分为固有被动句和非固有被动句，认为汉语被动句基本上仍未脱离“受影响性”这一主要生成因素，而日语中固有被动句虽然以“受影响性”为主要生成因素，但在非固有被动句中“受影响性”已经不再是主要生成因素。《基于理论与实证的日汉让步句对比研究》（张北林、李光赫）使用对译语料和单语语料，通过类型学方法和比较法分析了日语「テモ」让步句和汉语“P，也Q”、“P，都Q”、“P，还Q”等形式的让步句。《论元对汉日句法结构的影响》（邱根成）从域内论元和域外论元、词法和句法以及静态和动态的角度探讨了句法和复合词之间的关系。「「事態Aを受け（て）、事態B」文について」（朱薇娜）将该复句和间接被动句进行对比，认为这两种句子都是通过影响性把2个事件联系在一起，因此二者具有共同的基础。通过和对应的汉语表达进行比较，指出「事態Aを受け（て）、事態B」的事件A和事件B的意义关系主要有两种，一个是“受（到）事件A（的）影响，出现了事件B”，一个是“为了应对事件A，进行事件B”。《汉日内容小句的语用功能考察》（肖海娜）主要考察日语中「[3日以内に結論を出せという]指示」这种含「という」的句法格式与相应的汉语表达形式的语用功能。

「「～かける」の文法化について」（唐彬）通过广辞苑的逆向检索法收集具体例子，从认知语言学的视点考察其语法化过程。

词汇研究论文6篇。《“性向词汇”的汉日对比研究——以“大方的人”为中心》（施晖、栾竹民）通过计量研究，考察了汉日两种语言中对他人的性格、日常行为及人品等加以评价时使用的词汇群体，进而观察词语的使用与社会现状之间的关系。《从共现关系看近义词「気持ち」「気分」——以和动词·形容词的搭配为中心》（张佩霞、肖婵、吴宇驰）通过问卷调查和语料库数据调查了这两个词的共现情况，认为二者的意义和性质的区别主要体现在：「気持ち」主要表示“属性”、“思考”、“感情”，而「気分」主要表示处于心理内部和外部环境之间的边缘地带的“感情”和“深部感觉”。「「手」の接触を表す「触れる」の類型と意味」（高山弘子）考察了表示「手」和受事接触时的5种句法格式及其意图性，并分析了各种格式之间的语义演变关系。「「口」の意味拡張に関する認知的考察」（李旖旎）从认知语义学的角度考察了日语中「口」的语义扩展方式。「中日同形語「保守」に関する一考察」（邵艷紅）通过调查词典上的释义及语料库中的使用例，对汉日同形词“保守”从意义变迁、词性变化、使用搭配及感情评价等方面进行了汉日对比研究。「類義の慣用句に関する意味分析——「怒り」を表す中日慣用句を例に——」（吳琳）用语义特征分析了汉日两种语言中表示“生气”的惯用语。

语用研究论文1篇。「勧め行為に見られる「経験言及」と「行為提供」の適切性——中国人日本語学習者と日本語母語話者の発話行為を比較して——」（孫楊、瀋豊丹）针对“建议”言语行为进行了问卷调查，认为日语母语者和中国人日语学习者在进行“建议”言语行为时，都非常注意措辞，但在“经验言及”和“行为提供”这两个意义公式上存在差异。

翻译研究论文4篇。《中日小说中的引语特征及其翻译研究》（方芝佩）考察了中日小说中的各种引语形式，在此基础上考察了翻译中的各种处理方式。「異文化要素が文学翻訳に与える影響について——『故郷』の日本語訳本における「文化負載語」を中心に——」（杨茜）通过数种译本分析了鲁迅《故乡》中各类“文化负载词”的翻译问题。「“曾经”

の用法と日本語訳について——中日対照の立場から——」（張岩紅）使用对译语料库考察了“曾经”以及与“过/了”呼应的使用状况，认为“曾经”可表示“远过去”的事件，也可表示“近过去”的事件，而「かつて」只表示“远过去”，不表示“近过去”。「『五国対照兵語字書』の訳語——A部単語の訳語を中心に——」（胡琪）考察了1881年日本翻译出版的《五国对照兵语字书》中的A部词汇，并考察其对现代日语的影响。

二语习得研究论文3篇。《关于中国日语学习者学习策略使用情况的调查研究——从学习时间长短差异及学习效果差异的角度出发》（张金龙）通过对大学日语专业学生所做问卷调查的分析，从学习时间的长短差异来看，学习者对学习策略的使用频率并没有随着学习时间的延长而成比例提高；从学习效果看，成绩优秀学生的要比成绩后进学生更多使用学习策略。《关于中国日语学习者「一的に」结构习得的实证研究》（杨红）通过对中国日语学习者语料库的调查和问卷调查分析了学习者在习得「一的に」时的偏误状况，认为中国学生的「一的に」结构的使用现象具有将母语规则和目的语规则都过度类推的现象。「日本語学習の動機に関する一考察——大連外国語大学の日本語専攻の学生を中心に——」（沈丰丹）对大连外国语大学日语专业一至四年级学生为对象进行问卷调查，结果显示日语专业所有年级，在七种类型的动机中排名前列的分别是“信息媒介”“成绩”与“个人发展”三种。

本辑还有一篇书评。《经验主义的语料库方法是日语语言学研究的科学方法——评戴宝玉教授的新作《基于语料库的日语研究》》（施建军）在哲学和语料库语言学的大背景下对戴宝玉《基于语料库的日语研究》一书进行评述。

目 录

特 约 论 文

- 抽象名詞主題文研究の意義——作文を支援する語彙・文法的研究
の観点から—— 矢澤真人 1

语 法 研 究

- 汉日语系词句对比研究——以汉语属性句和日语措定句为中心
..... 张秀娟 陈访泽 15
- 日中両言語の受動文の受影性..... 李藝 27
- 基于理论与实证的日汉让步句对比研究..... 张北林 李光赫 39
- 论元对汉日句法结构的影响..... 邱根成 57
- 「事態Aを受け(て)、事態B」文について..... 朱薇娜 68
- 汉日内容小句的语用功能考察..... 肖海娜 82
- 「～かける」の文法化について..... 唐彬 94

词 汇 研 究

- “性向词汇”的汉日对比研究——以“大方的人”为中心
..... 施暉 栾竹民 111
- 从共现关系看近义词「気持ち」「気分」——以和动词·形容词
的搭配为中心..... 张佩霞 肖婵 吴宇驰 127

- 「手」の接触を表す「触れる」の類型と意味……………高山弘子 146
- 「口」の意味拡張に関する認知的考察……………李旖旎 158
- 中日同形語「保守」に関する一考察……………邵艷紅 171
- 類義の慣用句に関する意味分析——「怒り」を表す中日慣用句
を例に——……………吳琳 187

语用研究

- 勧め行為に見られる「経験言及」と「行為提供」の適切性——中
国人日本語学習者と日本語母語話者の発話行為を比較し
て——……………孫楊 潘豊丹 201

翻译研究

- 中日小说中的引语特征及其翻译研究……………方芝佩 218
- 異文化要素が文学翻訳に与える影響について——『故郷』の日本
語訳本における「文化負載語」を中心に——……………杨茜 230
- “曾经”の用法と日本語訳について——中日対照の立場から——
……………張岩紅 240
- 『五国対照兵語字書』の訳語——A部単語の訳語を中心に——
……………胡琪 251

二语习得研究

- 关于中国日语学习者学习策略使用情况的调查研究——从学习时间
长短差异及学习效果差异的角度出发……………张金龙 264

- 关于中国日语学习者「一的に」结构习得的实证研究 ……杨红 278
- 日本語学習の動機に関する一考察——大連外国語大学の日本語専攻
の学生を中心に——……………沈丰丹 291

书 评

- 经验主义的语料库方法是日语语言学研究的科学方法——评戴宝
玉教授的新作《基于语料库的日语研究》…………… 施建军 304
- Contents …………… 314
- 编后记 …………… 317
- 《汉日语言对比研究论丛》来稿注意事项 …………… 318
- 附录：汉日对比语言学研究（协作）会组织机构 …………… 321

抽象名詞主題文研究の意義

——作文を支援する語彙・文法的研究の観点から——

筑波大学人文社会系

矢澤真人

提要 以抽象名詞为主题，将其具体内容作为谓語来进行说明的句型是日语常用句型之一。在这种句型里，大多数都需要在句末添加形式名詞。例如：“この金属の特徴は熱で元に戻ることだ”。但是，有些抽象名詞不能使用此类句型。例如：“？この金属の性質は熱で元に戻ることだ”。本文对由抽象名詞及其具体化内容构成的句子进行大致的分类，同时指出关于抽象名詞对句型的制约作用的考察在语言教育和语言研究上。

キーワード 抽象名詞 内容節 句型 文法教育 作文教育

1. はじめに

2009年4月21日に、日本の中学校3年生を対象に「平成21年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語」が行われた。最初の問題（「国語A1」）は以下のようなものであった。

1) [1] 田中さんは、絵の鑑賞文を書き始めています。田中さんが書き始めた文章を読んで、後の問いに答えなさい。

(絵) 「モナ・リザ」レオナルド・ダ・ヴィンチ作

これは、レオナルド・ダ・ヴィンチが描いた「モナ・リザ」という絵です。この絵の特徴は、どの角度から見ても女性と目が合います。

一 線部「この絵の特徴は、どの角度から見ても女性と目が合いま

す。」は、「この絵の特徴は」と「目が合います」との言葉の関係が不適切です。この文の内容を変えないように、「合います」の部分の適切に書き直しなさい¹。

この設問の解答について、『平成21年度全国学力・学習状況調査【中学校】報告書』の「4. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題（1）国語中学校国語A 1鑑賞文を書く・分析結果と課題」では、次のように分析している。

2) ○本設問は、書かれた文章について主述の関係が適切になるように述語を書き直すものである。正答率は50.8%であり、文章を書く際に、主語と述語を適切に対応させて書くことに課題がある。

○誤答についてみると、「合ってしまいます」、「合う」、「合いません」など、主語である「この絵の特徴は」に対応しない述語を回答したものがあつた。これは、「この絵の特徴は」という主語の違いによって、異なつた述語を取ることが十分意識されていないものと考えられる²。

全国学力・学習状況調査は、次のような目的で行われるとされる。

3)・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(文部科学省「全国学力・学習状況調査の概要 調査の目的」³)

3)から、全国学力・学習状況調査は、現在の教育の定着度や応用力を図るためにおこなわれるもので、現行の『学習指導要領』に定められた

1 国立教育政策研究所「平成21年度全国学力・学習状況調査の調査問題について
○調査問題の内容【中学校】国語A」<https://www.nier.go.jp/09chousa/09mondai.htm>
(PDF版)

2 <https://www.nier.go.jp/09chousa/09kaisetu.htm> (PDF版)

3 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/zenkoku/1344101.htm

学習内容を超えるものではないことがわかる。また、この設問は最初の問題であることから、出題者は、被験者が容易に解答できると考えていたと思われ、50.8%という正答率は全く予想外であったと推測される。

この翌年には、「そばで聞いていた友達から『うまくなったね。』と言いました。」の「言いました」の部分を「友達から」にあわせて適切に書き直すという設問が出された。こちらの正答率は90.6%と高かった⁴。1)の正答率の低さは、2)に述べるような「主語と述語を適切に対応させて書く」ことの、一般的な問題とすることはできない。

本論の目的は、1)のような文型を修正するのにどうしてこのような困難さを伴うのかを分析することにある。あわせて、このような課題を解決するために、日本語研究はどのような働きかけができるかを検討することにある⁵。

2. 抽象名詞と文型

2.1 「抽象名詞主題文」と「モナリザ文」

もう一度、課題となる文に戻ろう。4)は、日本語母語話者には、なんとも落ち着かず、別の表現に置き換えたい欲求に迫られる。このような表現を「ストレスフル」な表現と呼んでおこう。この表現も、話し言葉で5)

4 「平成22年度全国学力・学習状況調査の調査問題について○調査問題の内容【中学校】国語A4下書きを推敲する」(<https://www.nier.go.jp/10chousa/10mondai.htm>; PDF版) および「平成22年度全国学力・学習状況調査【中学校】集計結果」(<https://www.nier.go.jp/10chousakekkahoukoku/index.htm>; PDF版)。

5 以下、本論では、「抽象名詞主題文」と呼ぶ文型に関わる課題について検討するが、言語学的に十分な分析や理論的な説明には至っていない。この点で、本論は、記述的な研究としての価値は小さい。本論は、言語教育における課題解決への日本語研究の寄与の仕方を示すとともに、課題解決という観点によって、日本語研究に新しい研究領域が見いだされる可能性があることを示すことにある。

また、現在直面する課題を解決するための研究においては、研究者個人の業績のために、研究テーマや情報を特定の個人や研究グループで閉ざしておくよりも、情報の公開や共同研究によって、いち早く解決を目指すことが望ましい。分析や理論的説明が十分でない状態で、研究テーマと見通しを示すのは、この意味もあると理解いただきたい。

のように発話されると、ストレスは軽減され、聞き逃されてしまうこともある。一方で、4)のように書き言葉にする場合は、6)のように文末に「こと」⁶や「点」などがつくことが求められる。7)のように準体助詞「の」をつけた形では、ストレスが解消されない。

- 4) ?この絵の特徴は、どの角度から見ても女性と目が合います。
- 5) (?)この絵の特徴はというと、どの角度から見ても、女性と目が合うよね。
- 6) a この絵の特徴は、どの角度から見ても女性と目が合うことです。
b この絵の特徴は、どの角度から見ても女性と目が合うところで
す。
c この絵の特徴は、どの角度から見ても女性と目が合う点です。
- 7) ? この絵の特徴は、どの角度から見ても女性と目が合うのです。

ここで、「この絵の特徴は」のように抽象名詞を主題とし、その後に内容を示す文を「抽象名詞主題文」と呼び、抽象名詞主題文であるが、4)のように内容が動詞文のまま、ストレスを感じさせる文を、先の設問にちなんで「モノリザ文」と呼ぶことにする⁷。

抽象名詞を主題とする動詞述語文がすべてモノリザ文になるわけではない。次の8)は、4)と同じ動詞述語文であるが、ストレスを感じさせない。4)の「この絵の特徴」は「合います」と格関係を結ばず、「どこ角度から見ても目が合う」という内容と題述関係で結ばれているのに対し、8)の「この絵の特徴」は「失われてしまった」の主格に相当し、

- 6 一般的に文の適不適は文法的正しさや許容度で示されるが、文そのものとしては許容できる範囲であっても、より違和感やぎこちなさの小さい文に直したいということがしばしばある。特に、「推敲」という観点では、文法的な正しさや許容度では示しにくい、ある表現に対して母語話者がどの程度修正に駆られるか、という指標が問題となる。そこで、本論では、橋本修氏の提唱に従って、この指標となる感覚を「ストレスフル (stressfull)」とよび、誰もがひとまずは修正を求めないものを「ストレスがない形」と呼ぶ。これに対し、別の形で言えないかと考えたくなるものを「ストレスフルな形」と呼び、二つ形の相対的な度合いでストレスフルの高さを判定する。
- 7 モナリザ文でも5)のようにストレスをあまり感じさせない場合もある。また、中国語では、モノリザ文は標準的な文型であり、ストレスを引き起こさない。

述語と格関係を結んでいる。いわば、8)は 連体修飾関係の「内の関係」に相当するのに対し、4)は「外の関係」(内容節)に相当する。8)は、単なる格成分の主題化による文であり、モノリザ文とは異なるのである⁸⁾。

8) この絵の特徴は、無神経な修正により失われてしまった。

抽象名詞主題文とモノリザ文を検討することは、日本語研究や国語教育・日本語教育の立場から、どのような意義があるのだろうか。まずは、言語教育の観点から、次のような問題を考えていく。

- 9) a モノリザ文は、言語習得が未熟な段階で生じる一過性の誤りか。
- b モノリザ文を修正するには、形式名詞をつけるだけで良いか。
- c 抽象名詞主題文の指導には、どのような支援が効果的か。

2.2 「特徴は」の用法

9) aを検討するにあたって、まず、モノリザ文が一般の文章でどの程度現れるかを調べておこう。全文検索システム「ひまわり」により、BCCWJにおける「特徴は」を検索し、200例のサンプリング調査を行ったところ、172例(86%)が内容を導く抽象名詞主題文として用いられていた。このうち不適切な文が14例見つかった⁹⁾。以下に典型的な例を挙げる。

- 10) ISDNの**特徴**は①高速・高品質のデジタル方式であること、②統合化したサービスが受けられること、③1本の回線で複数のチャンネルが利用できる等の利便性のほか、④情報チャンネルと信号チャンネルを分離していること、⑤国際標準及び国内標準に準拠したユーザ・網インタフェースを使用していること等の技術的特徴から事業者にとってもサービスの高度化・多様化が容易、保守・運用

8 矢澤真人・安部朋世(2012)。

9 モノリザ文ばかりでなく、以下のように形式名詞の選択を誤った例もある。「わけ」を「点」や「ところ」「こと」にするとストレスは軽減されよう。「昔の師範学校のひとつの特徴は、はじめから教師になるつもりで行ったわけです。」(小室直樹・色摩力夫(1997)『人にはなぜ教育が必要なのか』)